

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 人の知覚を用いた参加型 IoT センサ調整基盤の創出

2. 個人研究者名

松田 裕貴（奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 助教）

3. 事後評価結果

ユーザ参加型センシングから人間の知覚モデルを生成し、知覚を用いて IoT センサデータの人にやさしい「補正」を可能とする、新しい原理に基づく革新的な IoT センシング技術の創出に挑戦する研究である。人に寄り添い、真の安心安全を担保しながら利用可能なネットサービスを実現する基盤技術の確立と実環境での効果検証により、多種多様な次世代 IoT サービスの飛躍的な高度化と具体的な社会普及を目指した。

参加型 IoT 調整基盤を構成する要素技術として、不良回答の検知・防止・改善を可能とするユーザ参加型知覚データ収集方式、収集したデータに基づき知覚模倣モデルを導出する人の知覚による IoT センサ調整方式の確立に取り組み、具体的なユースケースでの効果検証により当初目標を達成した点は高く評価できる。更には、民間企業や自治体・地域コミュニティと連携し、生駒市コミュニティアプリや地域のデジタル図鑑システム、ポイ捨てゴミ分布可視化システムを用いて、具体的な社会実装に向けた成果展開を推進・加速している点も特筆すべき成果である。

研究成果は国内外で評価され、電子情報通信学会センサーネットワークとモバイルインテリジェンス研究専門委員会 2022 年度優秀発表賞や若手研究奨励賞の受賞を含め、IoT センシング分野をリードする若手研究者としての飛躍につながった。研究成果の一部は既に企業システムと連携しており、当該分野を世界的にリードするトップ研究者への更なる飛躍に向けて、国際共同研究の推進や様々な社会課題の解決に挑戦する大型研究プロジェクトの獲得・推進等、更なる成果発展が期待できる。